慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	『東京三田育種場種物図解』覚え書
Sub Title	A brief note on illustrated sheets of gardening plants published by the Mita Ikushu-jo (a farming station) in the middle Meiji era
Author	磯野, 直秀(Isono, Naohide) 田中, 誠(Tanaka, Makoto)
Publisher	慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会
Publication year	2010
Jtitle	慶應義塾大学日吉紀要. 自然科学 (The Hiyoshi review of the natural science). No.47 (2010.) ,p.127- 130
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	資料
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10079809-20100331-0127

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

Hiyoshi Review of Natural Science
Keio University No. 47, 127–130（2010）

『東京三田育種場種物図解』覚え書

磯野直秀*・田中 誠**

A Brief Note on Illustrated Sheets of Gardening Plants Published by the Mita Ikushu-jô (a Farming Station) in the Middle Meiji Era

Naohide Isono and Makoto Tanaka

故長谷川 仁（ひとし）先生の蔵書が御遺族の御好意で国会図書館に寄贈されることになった（注１）ので，私たちが調べていたとき，ある資料袋のなかに，見慣れない草花画が含まれているのに気付いた。その袋には80枚ほどの切抜きが入っており，多くは『有用植物図説』など既知の明治期出版物だったが，なかに「東京三田育種」あるいは「場種物図解」の文字をもつ草花図がいくつか目に入ったのである。上記の文字は無いが，同じ形式の切抜きもある。

その切抜き片は，次頁の図１に示すように４通りあり，上下のいずれかに二重線，左右のいずれかに二重線が入る。どれも草花の色刷図（注２）に和名と学名または英名を添え，右側に栽培法の要点や花期について数行の解説文があり，その末尾に「三田育種場」の名が入っている。

この４通りから推察すると，原資料は図２のように，４片（A ～ D）の切抜きが組み合わさって『東京三田育種場種物（たねもの）図解』（『図解』と略）の題名をもつ一枚刷（縦19 ～ 21×横25cm）となると思われる。そこで，該当する切抜きを集めると，この資料袋一つから25片も集まった。

三田育種場は明治10年（1877）に東京の三田四国町，現在の慶應義塾大学近くに設立された勧業寮の種苗試験栽培・販売機関（注３）で，同20年には民間に払い下げられた。農産物・園芸植物に関連する数々の出版物を刊行したが，これもその一つからの切抜きらしい。

しかし，図書館の目録類や三田育種場の出版物を調べても，上記の資料は見当たらない。

そこで，一枚刷を数多く所蔵されている雑花園（そうか）文庫の小笠原亮軒氏に伺った。残念ながら同

* 〒232–0066　横浜市南区六ツ川 3–76–3–D210，慶應義塾大学名誉教授（76–3–D210, 3–chome, Mutsukawa, Minami-ku,Yokohama 232–0066, Japan; Professor Emeritus, Keio Univ.）
** 〒183–0051　府中市栄町 3–24–7，昆虫学史研究家（24–7, 3–chome, Sakaecho, Fuchu-shi, Tokyo-to 183–0051, Japan） [Received Sept. 25, 2009]

図１　４種類の切抜き片（縮小率は図２と同じ）

図２　切抜き片から再構成した『東京三田育種場種物図解』の一例（注４）

図３　『東京三田育種場種物図解』（左）と『有用植物図説』（右）のオダマキ図

氏も上記題名の資料は御存知なかったが，個々の切抜き片は種子袋の木版刷といわれ，同文庫蔵の『内外百花瓣覧』など，類似の出版物をお教え下さった。種子袋は販売用の小袋で，表側には植物の図，裏側には解説を記す。版木は，刷り上がりで左に図・右に解説があるように作成し，刷り上がった和紙を二つ折にして袋を作った。

その後，他の資料袋からも同種の切抜きを見出し，最終的には計100片（重複は無い）に達した。しかし，いまだに原本の一枚刷そのものには出会っていない。

一方，民間移行後の三田育種場が明治22年（1889）に刊行した『百花瓣覧 初篇』（『初篇』と略：注５）に，『図解』と瓜二つの図と文が含まれていることが判明した。同書は三田育種場の場長・竹中卓郎が編集した折帖で，100点の草花図が含まれる。上記100点の切抜き片は，この100点と同一の図と文から成る。『初篇』で見開きの右左に位置する２図は，『図解』ではABまたはCDと連続することもわかった。

『図解』は『初篇』と同一の版木を用いて，ほぼ同じ時期に刊行された一枚刷らしい。どちらの資料も100点で，図数が同じであるから『図解』は 100÷４＝25種類あったに違いない。今回，実際に，その25枚すべてを復元できた（詳細は別報で報告する）。

また，雑花園文庫蔵『内外百花瓣覧』も『初篇』『図解』と同系統の出版物である。これも三田育種場の出版で，『初篇』の100品に28品を増補したもの（注６）だが，配列は『初篇』とまったく異なり，『初篇』と『図解』では解説文の最後にある「三田育種場」の場名がいずれも削除されている。雑花園文庫本は刊年不明だが，『農芸書目一覧』（浅井敬太郎，自家版，1937刊）によれば，明治31年版と明治37年版（ともに三田育種場刊）がある（注７）。

いま一つ，興味深い事実が判明した。『図解』ならびに『初篇』の図のかなりの数が，『有用植物図説』（田中芳男・小野職慤編，大日本農会，1891年刊）中の図と同一原図から描かれているのである。その１例を図３に示す。

『有用植物図説』に同一品があるのは『図解』100品のうち41品。その中の32品（78％）が図柄が同じで，同一原図から描かれたものである。それに対し，該当品はあるが原図が異なる場合は 9 品（22％）と少ない。

『有用植物図説』の原画は博物画の名手服部雪斎が描いたので，種子袋の図の相当数がその筆に基くことになる（注 8 ）。この点も新知見と思われる。

以上で覚え書を終えるが，『東京三田育種場種物図解』原本の所在や，その出版に関する情報を御存知の方は，ぜひ御教示いただきたいと願っている（2009年 9 月22日記）。

（注 1 ）本誌本号の著者報文（磯野直秀・田中 誠，尾張の嘗百社とその周辺，『慶應義塾大学日吉紀要・自然科学』，47号，15 〜 39，2010年）の冒頭を参照されたい。

（注 2 ）大半が園芸用草本で，農作物や木本の花は除外されている。

（注 3 ）薩摩藩邸の跡地で，計 4 万坪もあった。現在の芝 3 丁目に当たる。

（注 4 ）一枚刷の復元：①【B ➡ A（上段左右）の決め方】図 2 の例では題名中の「場」の字に切れ目が入っているので，B 片に合わせて「場」が復元する A 片を探す。②【B ➡ D（上下）の決め方】B 片の下部が波状に切られているので，これを目印として組み合う D 片を探す。③【D ➡ C（下段左右）の決め方】前頁下線部に記した規則性に基いて，『初篇』の D の前にある C を決定する。これはあくまで 1 例で，何らかの目印（B 片右下にある小鳥朱印，虫食い跡，汚れ模様も目印となる）をもとに，次々と隣り合う切抜き片を探し出すジグソーパズル的手段で，元の一枚刷25枚を復元できた。

（注 5 ）『百花辨覧 初篇』は東大総合図書館田中文庫本（おそらく初刷献呈本）を中心に調べ，国会図書館本（市販本）で補った。

（注 6 ）『内外百花辨覧』中に増補された図は，一つも『図解』に含まれていない。

（注 7 ）農作物については，『百花辨覧 初篇』に類する『穀菜辨覧 初篇』や『内外穀菜便覧』が三田育種場から刊行されているが，『東京三田育種場種物図解』と同一形式の一枚刷は無かったらしい。

（注 8 ）『東京市史稿』75巻によると，明治21年（1888）10月 5 日に三田育種場が東京府より事業継続資金1000円を借用したときの担保中に，「写生画，弐百五拾枚」と「種子袋并ニ各種版木類弐百五種面，但，色摺版木付属」がある。前者は服部雪斎らの描いた原図だろうし，後者は『図解』や『初篇』などに用いた版木と思われる。

謝辞

本資料の調査を公表するに当たっては，故長谷川 仁先生の御長男 幹 氏に御諒承いただき，また雑花園文庫の小笠原亮軒氏から，種子袋関連の資料について御教示を受け，『内外百花辨覧』などのコピーも提供して頂いた。この場を借りて，両氏に心から御礼を申しあげたい。